

町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)の意見募集実施結果

町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)素案について、意見募集を行いました。

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を参考に、これまでと大きく異なる社会環境の中でも、将来の町田を担う世代に負担を負わせることなく、施設を適正に維持管理することはもとより、新たな価値の付加やさらなるサービスの向上を図り都市の魅力を高めていくための取り組みを行っていきます。

個々のご意見の概要と市の回答については、次ページ以降をご覧ください。なお、ご意見は項目ごとに整理し、要約して掲載しています。

1. 意見の募集期間

2015年12月21日(月)～2016年1月20日(水)

2. 意見募集の方法

●以下の施設での資料配布・閲覧

企画政策課、市民相談室、市政情報課、各市民センター・連絡所、市民フォーラム
各コミュニティセンター、各市立図書館、町田市民文学館、生涯学習センター

●町田市ホームページへの資料掲載

3. いただいたご意見の内訳

電子メール、窓口への提出を通じて、13名の方から51件のご意見を頂きました。
ご意見の内訳は以下のとおりです。

【ご意見の内訳】

ご意見の該当箇所		件数
1. 公共施設の状況		1
2. 総合的かつ計画的な管理の必要性		1
	暮らしと身近な地域拠点の確保	1
		30
3. 基本方針	目指すべき姿	1
	具体的取り組み	1
	施設総量の圧縮	5
	官民連携によるサービス向上	14
	既存資源の有効活用	2
	施設機能ごとの方向性	4
	計画の目標	1
	都市インフラ施設	2
4. 今後の検討の進め方		2
		17
5. その他	計画全般	13
	団地	2
	その他	2
合計		51



<ご意見の概要と市の回答>

1. 公共施設の状況に関するご意見

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
1	公共施設等の状況	施設分類別の単位面積当たりの管理運営にかかるコストも掲載してあるとよいのではないか。	公有施設の総合的な管理を進めていくうえで、コストの把握は重要だと認識しています。ご指摘については、実行計画の策定業務の中で検討していきます。

2. 総合的かつ計画的な管理の必要性に関するご意見

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
1	暮らしと身近な地域拠点の確保	身近な地域拠点の確保は、効率的な維持管理とは全く別の話ではないか。総合管理計画と何の関係があるのか、わからない。	公共施設は地域拠点としての役割も担っています。その機能を今後も維持していくためにも公共施設の計画的な維持管理計画が必要です。

3. 基本方針に関するご意見

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
1	目指すべき姿	経営的視点に立った施設の管理と運営とは、費用対効果が低いところは廃止するということか。	必要なサービスについては維持・向上させていきます。
2	具体的取り組み	<p>公共施設についての4つの基本方針はある程度賛成である。</p> <p>ただ、維持管理費用の削減や指定管理による人件費の削減には大きな問題がある。指定管理の方が市の直営よりも安く済むということは指定管理者が非正規労働者を雇うということである。市が積極的にワーキングプアを作ってはいけない。町田市が少子高齢化で税収も減るという前提でプランがたてられているが、人口減少や税収減に少しでも歯止めをかける工夫も必要ではないか。</p> <p>指定管理にしたために市民にとってよいサービスとはいえないこともある。</p> <p>また、2015年の外郭団体基本情報調査票によれば、市の指定管理者、(財)町田市文化・国際交流財団は、市の職員の天下り先になっている感もある。</p> <p>委託による管理が本当に維持管理費用の削減になっているのかわからない。</p> <p>コスト削減＝指定管理、委託ということではなく、コスト削減を考えてほしい。</p>	<p>コスト削減と施設運営の手法については、それぞれのサービスの特性等に合わせて、最も効率的かつサービスの維持向上に効果的な手法を検討していきます。</p>

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
3	施設総量の圧縮	都市核としての町田駅・副次核としての多摩境駅・鶴川駅・南町田駅に施設の集約化を図ることも妥当と考えるが、各々の都市核、副次核周辺地域における生活核をどのように形成するかなどの位置づけと性格付けについての検討が希薄ではないか。20数年前は、町田の地域的拠点として相原・中心市街地・鶴川・つくし野を地域核として取り上げていたが、その後都市計画マスタープラン改定に伴い、都市核(町田駅)・副次核(鶴川駅・南町田駅・多摩境駅)を拠点とした都市づくり(地域核づくり)に変化していったことの検証も必要ではないか。	施設の集約にあたっては、都市核、副次核を含め、集約するサービスの性質と地域特性を考慮して総合的に検討していきます。
4	施設総量の圧縮	地域の距離なども考えてバランスよく配置してほしい。	施設の配置については、サービスの性質や地域特性等を考慮して総合的に検討していきます。
5	施設総量の圧縮	老朽化した施設の維持管理についても地域性を考慮し他の施設との併用活用により極力縮小していくことは出来ないか。	ご意見のとおり、老朽化した施設についても、他の施設と複合化・多機能化等を図り、施設総量を圧縮していきます。
6	施設総量の圧縮	多目的に使える施設づくりが必要ではないか。公共施設の在り方として、出来るだけ多くの使い方が出来る施設にする必要がある。例えば、学校は学校でしか使えない造り方では用途の転用が出来ない。現存する規制もあるが、地域では集会施設も含めて様々な活動の場が求められている実態から、様々なバリアフリーが求められている。	今後は、多目的に使える施設づくりを検討していきます。また、施設を建替える際には、用途の変更に柔軟に対応できるような仕様を検討します。
7	施設総量の圧縮	集約された施設が便利に活用されるためには、施設へ気軽に行けるための交通網の整備が求められるのではないかと。その際、渋滞を避けたルートがつけれる、住宅地の中までルートを伸ばせる、乗降場が簡素で乗り降りが楽、街のスケールを保ち地域環境の一体感を損なわないなどのメリットがある小型バスの活用などによる小回りのきいたきめ細かな交通網の方が適切ではないか。	施設を多くの方に活用していただくためにも、施設までの交通手段は重要だと認識しています。施設を集約するにあたっては、誰もが利用できる公共交通機関などの交通利便性にも配慮します。
8	官民連携によるサービス向上	官民連携と呼ばれる民間活力の活用や、地域による管理など、聞こえはいいが、実態が見えない。単なるリスクの転嫁に思え、サービスの低下を招くように思える。既存サービスの維持・向上が見えるような形にしないと、納得できない。	民間活力の活用や地域による管理などの実施にあたっては、サービスの性質や地域特性等を考慮して検討していきます。必要なサービスについては今後も適切に維持していきます。

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
9	官民連携によるサービス向上	施設の集約化や施設総量の縮減、機能の複合化、多機能化とあるが、地域の生活核においては、より一層の工夫が必要ではないか。(生活核では特に空き家の活用が必要)そのために、地域の生活や地域住民の自主的活動を能動的にするには、都市核、各副次核との様々な繋がりデザインを行い地域核とする必要を感じる。	ご意見のとおり、地域の特性も考慮し既存資源の有効活用の一層の工夫と地域住民の自主的活動が生まれやすくするための検討を行っていきます。
10	官民連携によるサービス向上	施設の複合化・多機能化やLCCの縮減・長寿命化などは、施設のリノベーション・イノベーションを含めた検討材料とする上で、市内のまちづくりの専門家と市民協働で取り組むことが不可欠ではないか。これらを具体的に進めるためには、生活核における施設の運用・サービスなどは地域に委ねることも検討材料である。そのためには自治基本自治条例などの整備と新たな人材育成も必要でそのしくみづくりも必要ではないか。今後より一層の検討を行政との市民協働で行われることを望む。	ご意見のとおり、様々な方との協働が重要であると認識しています。今後、公共施設の維持管理・運営については市民の皆さんと協働して行っていきます。
11	官民連携によるサービス向上	現在町田市では、地域課題の解決や地域サービスの充実を地区協議会の自主的運営に委ねる施策を行っている。このことは、今回の町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)の基本方針に於ける「新たな価値を創出し暮らしと身近な地域拠点を確保」にも関連する事案だと思う。 地区協議会のような組織が単に地域行事を構成する団体で行うだけでなく、地域核の公共施設の運営や事業企画を自主的におこない、地域のまちづくりデザインにも訴求する組織になり都市核、各副次核との様々な繋がりデザインをつくりあげていけるように今後の担い手の育成が急務ではないか。 担い手育成には、市のまちづくり研究機関などが主体となり、コミュニティデザイナー・コミュニティアーキテクトを養成し、彼らが居住する地区協議会などに派遣する仕組みを検討してほしい。 仕組みづくりには市域のまちづくり・建築を主とした専門家グループ(NPO及び市民団体)などと協働で行うことや、当面は、こういったグループの地域への派遣も必要だと思う。	地域の自主的運営を推進していくため、地区協議会との連携や様々な担い手との協働が重要だと認識しています。ご意見を参考に、これらを進めていくための仕組みの検討を行っていきます。

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
12	官民連携によるサービス向上	<p>今後は、市民全員がそれぞれに現実を直視できる素材をできるだけ具体的に明示し、できる限り広くからの意見集約が必要ではないか。</p> <p>進め方として、地区協議会の本来期待される担うべき役割を検討していくよい材料になると考える。また衰退しつつあるようにみえる地域コミュニティの再創造のきっかけとなるであろうし、近年は各地で広がるテーマ型のコミュニティに対してもその活動を存続発展させるきっかけとしてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、市の状況を適切に市民の皆さんに伝えつつ、地区協議会との連携や様々な担い手との協働を進めていきます。ご意見を参考に、これらを進めていく仕組みの検討を今後行っていきます。</p>
13	官民連携によるサービス向上	<p>PFIなどを導入しても採算がとれないと、行政が直接施設を整備・運営するより多額の費用がかかることも考えられるため、導入する対象を精査する必要があるのではないかと。</p>	<p>ご意見のとおり、施設の整備にあたっては、効果の検証を行った上で適切な方法を選択していきます。</p>
14	官民連携によるサービス向上	<p>他自治体との連携は、相模原市と人の移動も多く、生活圏が重なっている部分も大きいと思うので両市にとってよりよくなるように進めてもらいたい。</p>	<p>市では、相模原市との施設の相互利用などの連携を推進しています。また、サービス提供の広域化を図ることで、サービスが向上するものについては、近隣の自治体とより密接な連携をしていきます。</p>
15	官民連携によるサービス向上	<p>この計画案は、おそらく多くの方々の理解を得られる内容である。今後、この基本計画に基づいて確実に実現できることを願っているが、この計画を具体的に実施していく段階で、如何に十分な実態把握と分析ならびに社会の変化に対応した施策が出来るかが重要である。</p> <p>実施の効果を高めるためには、市民意識を変える必要があるのではないかと。</p> <p>地区協議会の発足に伴って、地域のことは地域で考える意識が高まることが期待されるが、同様に公共施設は市民のものであり、市民が自分たちの財産としてしっかり管理し育てる意識を持たなければならないと考える。行政が造り行政が管理する施設を市民だから安く使えて当たり前という意識がある限り、大きくは変わらないと感じる。</p>	<p>ご意見のとおり、十分な実態の把握に努め、社会変化に対応しながら計画を推進していきます。</p> <p>また、市の状況を適切に市民の皆さんに伝えつつ意識共有を図り、地区協議会との連携や様々な担い手との協働を進めていきます。</p>
16	官民連携によるサービス向上	<p>民間組織の活用が必要ではないか。</p> <p>従来行政が行ってきたことも信頼できる民間組織を活用、又は新設し行政の負担軽減を図るべきである。行政依存型ではこれからの社会変化に対応できない。行政の指導で施設管理と運営を行う民間組織を創設することも視野に入れて検討することが必要だと考える。</p>	<p>ご意見のとおり、社会変化に対応するため、民間組織などの多様な主体との連携を図り、施設の維持管理・運営をしていきます。</p>
17	官民連携によるサービス向上	<p>公共施設としてのサービス利便性や助成制度の見直しを市民に対し理解を得てはどうか。また、民間企業の活用、NPO法人の参加、地域団体及び自治会等への協力を要請してはどうか。</p>	<p>市の状況を適切に市民の皆さんに伝えるなど理解を得ることに努めます。様々な主体と協力・連携していくことは、重要だと認識しています。</p>

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
18	官民連携によるサービス向上	市民が主体ということであれば「市民と共に考えていく」「市民の協力を仰ぐ」という方向性で検討してくのはどうか。	ご意見のとおり、市民の皆さんや地域との積極的な連携を図りながら検討していきます。
19	官民連携によるサービス向上	町田市は東京都ではあるが、それぞれの核の位置は隣接する神奈川県各市境である。その自治体との密接な連携が「まちづくり」の上でも重要な要素ではないか。	他自治体と連携し、サービス提供の効率化や向上を図っていくことは重要だと認識しています。他自治体との密接な連携を図っていきます。
20	官民連携によるサービス向上	官民連携とうたっているが、今までのところ、なかなか市民の声を活かすことができていない。市の施設などを作る際に市民ワークショップを開催するが、肝心なことは市の中で決めて、市民の意見は求められていない。官民連携とうたうなら、ぜひもっと市民の声を聞いてほしい。	今後、施設の運営については、地区協議会等の様々な担い手との協働が重要だと認識しています。市民の皆さんや民間企業などが主体となって積極的に参画する仕組みの構築を目指します。
21	官民連携によるサービス向上	民間との連携における市民について、ボランティア精神のみに頼るのでは続かない。連携が仕事としても成り立ち、市民が市民を責任持って継続的に支えられるような仕組みを望む。地域社会維持に対し意欲ある市民が活かされ、食べられ、税金を払えるような循環を考えてみてもよいのではないか。	市民の皆さんや地域と継続的に協力・連携していくことは重要だと認識しています。ご意見を参考に、市民の皆さんが継続的に関わっていける仕組みについて検討していきます。
22	既存資源の有効活用	繁華街の中に広場や緑をもう少し増やしてほしい。その広場に図書館やカフェが隣接していたら、素敵ではないか。	地域資源や既存資源を活用し、人々が交流するための空間作りを支援していきます。
23	既存資源の有効活用	人の交流や公益的サービスを創出する場づくりへの支援は、市は具体的に何をするのか	個々の取り組みに応じて、効果的な支援を検討していきます。
24	施設機能ごとの方向性	行政側の見直し点としては、「市民へのサービス」はどの程度まで必要なのか。出来るだけ「市民ニーズ及びサービスの抑制と負担協力」を前提とし、将来の方向性及び計画を検討してはどうか。	社会状況やニーズの変化に対応したサービスの見直しが必要だと認識しています。ご意見を参考に、今後検討していきます。

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
25	施設機能ごとの方向性	<p>人口と財政状況の見通しが右肩下がりであることが明らかとなっている状況下では、今後は、日々の市民生活を支える基幹的インフラの整備、防災・交通安全、環境・ゴミ処理、子育て、学校教育分野への支出に絞り込み、町田市が行わなくても市民が困らない事業への支出は削減すべきではないか。具体的には、以下の2項目は、計画や予算を廃止もしくは大きく削減する見直しを行うべきではないか。</p> <p>(1)美術館・博物館関連 美術館や博物館は「市」が所有・管理する必要性に乏しく、国や都または民間に任せべきではないか。このような状況下で工芸美術館を市が新規に建設する必要性は全く無い。仮に建設しても、将来の維持管理費捻出することは不可能ではないか。維持管理費の削減以前に、まず無駄な新設をすぐさま取りやめるべきである。</p> <p>(2)陸上競技場関連 町田市にJリーグは不要。野津田の陸上競技場をJリーグ誘致(昇格)のために改造することは、初期投資および維持管理費用の増から無駄な支出である。市の陸上競技場は市民が使用できれば機能上全く問題がない。</p>	<p>今後、分野ごとの社会状況や見通しを十分考慮し、市が提供すべきサービスの量や質の適正化を行った上で、施設機能ごとの方向性を検討していきます。</p>
26	施設機能ごとの方向性	<p>収益性を高める対策が必要ではないか。施設の維持管理費用を捻出するために、利用料金の見直しやイベント企画等の収益を検討する必要があるのと考え。アンケートの集計からも公共施設の利用者は約25%に過ぎないので、もっと利用者を増やすと共に受益者負担を増やすべきではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、経営的視点に立った施設の維持管理と運営を目指す上で重要な考え方だと認識しています。今後、収益性を高める取り組みを検討していきます。</p>
27	施設機能ごとの方向性	<p>施設機能ごとの方向性は、なぜこのようになるのか。</p>	<p>機能ごとの方向性は、今後、サービスの見直しを検討していく中で、特に検討すべき事柄の例を示しています。それぞれの機能の特性等を考慮して決めました。</p>
28	計画の目標	<p>金額だけが計画の目標か。施設はどのぐらい減らすのか。また、都市インフラ施設も減らすのか。新しく建てる施設がどのぐらいあって、減らすのがどのぐらいなのか示して欲しい。</p>	<p>施設の維持にかかる費用を歳出可能な水準内に抑える必要があることから、必要削減額を計画の目標としています。施設の削減目標は決めていませんが、今後は、原則として廃止を伴わない施設の新設は行いません。都市インフラについては、市民生活に直結するものであるため、基本方針で示したとおり、市民の皆さんがいつでも安心して活動し生活できることを最優先にしていきます。削減目標は決めていませんが、より一層の効率化に努め財政負担の軽減を図っていきます。</p>

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
29	都市インフラ施設	都市インフラ施設の計画の目標は何か。	都市インフラについては、市民生活に直結するものであるため、基本方針で示したとおり、市民の皆さんがいつでも安心して活動し生活できることを最優先にしていきます。削減目標は定めていませんが、より一層の効率化に努め財政負担の軽減を図っていきます。
30	都市インフラ施設	地域によっては今後の開発の抑制までも視野に入れたほうがよい場合もあるのではないかと。都市インフラに関してもそのような地域の想定に基づいた対応が必要だと考える。	都市インフラ施設については、優先順位を明確にし、補修を計画的に実施していきます。ご意見として承り、今後の参考とさせていただきます。

4. 今後の検討の進め方に関するご意見

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
1	今後の検討の進め方	縦割りの行政を横断する大きなテーマとして様々な機会にこの問題をほんの少しづつでも伝える努力を続けてほしい。	ご意見のとおり、関係部署と連携しながら、計画を推進していきます。
2	今後の検討の進め方	行政施設を地域展開する際に、旧五カ町村、学校区、副次核、どこを基準とするのか部署によってバラバラのように感じる。どのように地域展開していくのか足並みを揃え複合化すべきではないか。部署ごとにバラバラに策定された部門計画(配置計画)も合わせて見直すべきではないか。また、施設を利用する側としても、内容に応じてあちこちに行かなくて済むので、複合化されていた方が使いやすい。	ご意見のとおり、施設の複合化についても、サービスの性質と地域特性を考慮し、関連部署と十分な連携を図って進めていきます。また、部門ごとの個別計画においても、公共施設の管理や整備に関する考え方は、原則として本計画との整合性を図ります。

5. その他

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
1	計画全般	市民や利用者のニーズを把握した上での計画なのか、疑問がある。集約化や再配置にさらにお金がかかるように思えるが、本当に必要とされている施設、必要なサービスというものがこの計画に反映されているように思えないし、それが見えない。市民や利用者の意見を反映させる取り組みをやるべきである。また、必要となるサービスを見えるようにするべきである。	市民意見については、2015年9月に「町田市公共施設に関するアンケート調査」を実施しました。市民の皆さんや地域と協力し、積極的に連携していくことは重要だと認識しています。社会状況やニーズの変化に応じて必要なサービスを検討していきます。

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
2	計画全般	<p>総論について、「まちだ未来づくりプラン」より計画される概要については妥当と思う。</p> <p>市の人口推計と今後の財政状況の見通しに基づき、市の機能をコンパクトシティ化して行くことは当然の成り行きで、総合的且つ計画的な管理を行った上で将来を見据えた新たな価値を創出し暮らしと身近な地域拠点を確保することなどについても妥当と考える。</p> <p>基本方針について、目指すべき姿と基本方針に述べられる4つの基本方針についても妥当な方向と考える。</p>	<p>ご意見を参考に、目指すべき姿と基本方針に基づいて計画的な維持管理を進めていきます。</p>
3	計画全般	<p>「公共施設等総合管理計画」の内容それ自体は全体として妥当なものである。</p>	<p>目指すべき姿と基本方針に基づいて計画的な維持管理を進めていきます。</p>
4	計画全般	<p>「計画」が「まちだ未来づくりプラン」に[即す]となっているが、「プラン」において描かれる未来はあくまでも明るいものである。比較して「計画」では迫りくる危機とでもいえる大きな不安が強調され、両者の連続性、整合性に些かの落差を感じる。</p> <p>また、「計画」は2020年代後半より人口(特に生産年齢人口)が急速に減少することによる将来の公共施設維持管理の問題への対応を描いたものであるが、「プラン」の目標点2021年以降の問題を扱う「計画」の大前提として「町田市」の2055年のあるべき姿を「公共施設」をどうするという枠内ではなく、より広い視点で描いておくべきではないか。</p>	<p>本計画も、「まちだ未来づくりプラン」で目指している将来のあるべき姿に向けて、人口などの社会変化や財政状況に対応していくための計画です。ご意見のとおり、2055年のあるべき姿を長期的視点で考えていくことは重要だと認識しています。40年後の人口と財政の状況を見据えて本計画も作成していきます。</p>
5	計画全般	<p>具体的な計画としては、40年(50年)後位の設定は妥当ではあろうが、将来的に人口が増加することはまずありえない。更に人口が減り続けていく想定のもとに「都市を畳む」ということにまで本格的に取り組んでおく時期ではないだろうか。</p> <p>各公共施設は、段階的な縮小整理により閉鎖への軟着陸が必要ではないか。また各公共施設の背景となる法令等についても今後国等の大きな変化もありうる。現在の常識や手法にとらわれない柔軟なそして先端的な対応の工夫が求められる。</p>	<p>ご意見のとおり、現在の常識や手法にとらわれない柔軟な対応の工夫をしながら、公共施設の管理に柔軟に対応できるようにしていきます。</p>

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
6	計画全般	人口減少(超高齢化)に伴う地域の変化への対応が、その逆の場合と比較して常にマイナス面のみ取り上げられることに疑問を感じている。本来の適正量を超えていたのかも知れない地域の発展がやっと終了し、今後はより豊かな生活がおくれる地域を創れるのかもしれないと考え、「公共施設の維持管理が大変になりますから何とかしましょう」ではなく、「縮小(適正かも知れない)する町田市を市民皆で創造しましょう」という問題提起が必要ではないか。	ご意見のとおり、人口減少による社会変化のマイナス面だけをとらえるのではなく、時代の変化に対応した新たな価値の創出を目指していきます。
7	計画全般	名称が「町田市公共施設等総合管理計画」となっているが、内容は、基本的な方針を示しているの、基本方針などの名称がいいのではないか。	本計画には、基本方針だけではなく、目標や取り組み、今後のスケジュール等も載せているため、計画という表現をしています。
8	計画全般	「まちだ未来づくりプラン」として、「公共施設」のみの計画に関わらずより広い範囲及び視野からの視点で「行政」としての「町田市全体」で取り組むことが重要ではないか。また、全体に対し、そのための理解を得る具体的説明と説得が必要ではないか。	本計画は、まちだ未来づくりプランに即した公共施設等の計画であり、実施にあたっては、より広い視点をもって関連部署と連携しながら計画を推進していきます。
9	計画全般	町田市公共施設等総合管理計画の素案の内容に同意する。 現状の公共施設を改修することで、新設しなくても現在よりユニークで、市民の要望にマッチした施設にできるのではないか。それには、企画段階から市民と協働したり、地元でがんばっている民間企業に参加してもらい、あらゆるアイデアを出すことが大切である。 高齢者がますます増加することが予想される現在、地域に根ざしている小学校などに、高齢者関係の施設が入っているなどおもしろいのではないか。高齢者もデイサービスなどで、お世話されたり趣味の時間を過ごすだけではなく、ちょっとした仕事ができるような場があるといい。	ご意見を参考に、市有財産の有効活用及び様々な方と協力・連携することで、地域のニーズによりそったサービスの向上を目指していきます。
10	計画全般	位置づけで、「まちだ未来づくりプラン」に即すとあるが、「まちだ未来づくりプラン」との関係性がわからない。計画から求められている必要性について、言及するべきではないか。	ご意見のとおり、計画の位置づけについて丁寧に説明します。
11	計画全般	本計画の体系がよくわからないので、わかりやすい図があると良いのではないか。また、今後の検討の進め方はあくまでスケジュールではないか。	計画の体系については図を追加します。また、検討のスケジュールに加えて庁内体制や市民の皆さんや事業者との連携に関する考え方を示します。

No.	該当箇所	ご意見の概要	市の回答
12	計画全般	効率化、理屈としては理解できるが、今まで何をやってきたのかという思いで、行政がこれまでやってきたダメなことのつけを払わされているように思う。むしろ新たな取り組みを行うことのコストが大きくなるのではないかと。これまで効率的なことをやってこなかった行政が、きちんとコントロールできるように思えない。	これまでも市では、行政経営改革プランに基づき市有財産の戦略的活用に取り組んできました。今後、多くの公共施設が建替えを迎えることから、膨大な費用がかかることが見込まれています。この課題に対応するため、新しい手法等も用いて、長期的な視点でコストの削減に取り組んでいきます。
13	計画全般	人口減少と高齢化及び財政の減少は避けられない問題である。一方、公共サービスの維持及び向上とインフラ施設の必要性という相反した課題をどのように考えていくのかというと、インフラ整備を最優先に、公共施設の維持管理は極力集約化を図りコンパクトで効率のよい施設として見直すのはどうか。	都市インフラ施設は、安心・安全の確保を最優先とした維持管理を基本方針に基づき着実に推進していきます。公共施設の集約・複合化については、サービスの性質や地域特性等を考慮しながら検討していきます。
14	団地	団地は北部丘陵から境川に至る広い範囲を占めている。これら個々の団地群は公共施設ではないが、町田市に主要な生活核としての位置付けを行い、それらに配置されている公共施設の在り方などの検討を行うことで、団地群が町田市におけるコンパクトシティの一つとなり地域核として機能するのではないかと。	「町田市都市計画マスタープラン」でも木曾山崎などの団地の近隣センターを生活中心地と定めています。団地は本計画の対象となる公共施設ではありませんが、ご指摘のとおり、地域を構成する大きな要素の一つであるため、公共施設を検討する中で、その特性についても考慮し検討していきます。
15	団地	公共施設ではないが、町田市には団地が多いので、公共的なことにも利用したらどうか。	ご意見のとおり、団地は地域を構成する大きな要素であるため、公共施設を検討する中で、その特性についても考慮し検討していきます。
16	その他	計画の概要から基本方針に至る現状認識は概ね妥当な内容である。郊外都市町田市の大きな特徴は都市核、副次核ともに市域外縁に位置し、市域の中央部は住宅地と市街化調整区域である北部丘陵の農業地域と緑地が「陸の孤島」のごとくに配されている。都市計画図では白抜きであるこの場所が最も緑豊かな地域である。この地域の将来は都市核、副次核への人口及び施設の集約化が必然的に進むと思われる中でどのように計画されるのか。	施設の配置にあたっては、都市核、副次核を含め、集約するサービスの性質と地域特性等を考慮して総合的に検討していきます。
17	その他	北部丘陵は鶴見川の源流地域である。自然環境・緑地保全又、防災(水害)の意味からも他自治体との連携、相互・広域利用の広大な都市型源流自然公園として整備してはどうか。この地域は将来、リニア(地下)、小田急多摩線延伸に伴う新駅の設置計画、そして多摩モノレールの延伸計画等により環境が激変することが予想される。基幹交通の空白地であるこの地域の利便性と自然環境の保全と調和のある都市インフラ施設となることを期待する。	計画の推進にあたっては、地域の特性や将来を十分に考慮して進めていきます。